

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台文学館	
2 指定管理者	公益財団法人仙台市市民文化事業団	
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和5年度 40,872人(前年度比 91.2%) 令和4年度 44,836人 令和3年度 53,912人	
	《事業》 ・施設の管理運営 ・特別展等の企画及び開催 ・文学資料の収集、保管	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 194,181千円 (195,840千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 3,908千円 (5,397千円) ・ その他収入 1,071千円 (1,303千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・ご意見箱を設置して、常時意見をいただいている。 ・特別展や企画展ごとのアンケートを実施。 ・施設利用者アンケートの実施。	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的や基本方針について、職員間で共通理解がなされており、利用者へ対しても適切に周知している。展示だけではなく、文学関係者・団体との共催事業や文学について深く学べる講座を多彩な内容で実施しており、文学館の設置目的に合った取り組みを積極的に行っている。	27/27
II 施設の運営管理体制	職員の業務実績や配置、仕様書や事業計画に即した業務の実施状況等は適切である。また、経理について、帳簿の整理・保管や市への報告等、適切になされており、個人情報等の情報管理についても、市の規定に準じて取り組んでいる。災害発生時の対応について、防災マニュアルに基づく訓練を適切に行うとともに、災害時の情報連絡体制・役割分担も明示されている。	30/30
III 施設・設備の維持管理	屋内の管理については、法定点検のほか、職員による自主点検を実施のうえ、老朽化等による不具合等について早期に発見し、随時市への報告がなされている。また、来館者の利用に不便が生じないよう、応急措置等についても速やかに実施しており、安全面や快適な利用環境の維持に対する意識が高い。屋外の管理については、台原森林公園に隣接し、樹木に囲まれた環境であることから、優先度を決めて伐採を行い、近隣施設から剪定の依頼があれば迅速に対応するなど、適切な管理がなされている。	24/24
IV サービスの質の向上	定例ミーティングや研修、OJT等により接遇や必要な情報をしっかり身に付けており、来館者に対し、親切丁寧な対応がなされている。情報発信についても、ホームページのほか、X(旧:Twitter)を効果的に活用することにより、幅広い世代へ情報が行きわたるよう取り組んでいる。	28/28
V 施設固有の基準	質の高い展示を行っている点について、企画展「石川裕人 演劇に愛をこめて」については、仙台を中心に演劇活動を続けた劇作家・石川裕人の生涯を時系列的に並べ、功績を明らかにすることで、演劇を知らない人にとっても理解しやすい展示であり、文学的意義も大きかった。加えて、地元の演劇団体と連携しながら制作し、劇都仙台の発信や演劇文化の普及啓発、活性化につながる内容であったことは高く評価できる。また、当時の脚本や台本、衣装などの現物を多く展示していたため見ごたえがあり、充足感が高かった。 充実した図録等を制作している点について、図録「石川裕人 演劇に愛をこめて」は、これまで明らかにされていなかった戯曲関係資料の現状を集約把握し、今後の石川裕人研究の基礎資料となる内容となっており、企画に合わせた魅力的、かつ資料的に貴重で価値の高い図録を制作していることが高く評価できる。	50/48

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台市市民文化事業団）による自己評価》
<p>施設の管理運営は、施設所管課と定期的な打ち合わせのほか、電話、メールなどで情報交換を行い、関係法令並びに協定書等に基づき適切に運営を行った。内部では毎朝の事務連絡、毎週水曜日に各委託業者の事務連絡及びその直後に職員全員で情報交換を行って連携して業務にあたることで、スムーズな市民サービスの提供を行った。施設管理料確定額は、194,181千円と昨年度を1,659千円ほど下回っている。主な理由は、節電により、光熱水費増大を抑制できたことなどが考えられる。また、開館から20年以上過ぎ、館内各設備が経年劣化で不具合もあるが、適宜修繕を行った。令和8年の大規模改修を見据えて計画的に修繕を実施し、適時に対応していきたい。入館者は40,872人、観覧者数は14,592人だった。展示は、春は画家・いわさきちひろ、夏は絵本作家・ささめやゆき、秋は仙台の劇作家・石川裕人、冬は自館資料を紹介した。春は「ちひろ美術館」の協力のもと4,247人の方が訪れ、夏は市内の文庫の会など、32団体に協力いただき「お話会」を再開することができた。秋は普段の数倍の50人以上の協力があり、イベントも通常の倍以上の7つ開催したが、すべて定員を超える応募があった。また今後の基礎資料となる図録を作成することができた。冬は県内で発行された文芸誌約190冊を紹介し、当館の所蔵資料の厚みを示すことができた。文学資料は購入503点、寄贈728点を受け入れた。普及啓発事業では、館長講座・ゼミナールなどに2,000人以上が、「ことばの祭典」は参加者数を制限したが、コロナ以前の当日吟行会形式で開催することができ、約100人が参加した。休止していた「こどもの本の部屋」や「視聴ブース」も再開したところ、休日を中心に利用者が戻って来た。次年度は開館25周年の節目にあたる。一人でも多くの方に足を運んでもらえるよう、事業展開をしていきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>施設運営については、開館や施設貸出、帳簿等の整備保管、保守点検や設備修繕・清掃等を含む施設の維持管理、個人情報保護や情報セキュリティ・情報公開への対応、事故や災害時等の危機管理体制の構築、その他必要な書類の整備、諸手続き等、関係法令や協定書に基づき、いずれも適正に実施されている。施設は経年劣化が進み不具合も発生しているが、展示資料や利用者に影響がないよう適宜修繕が施されている。令和8年度から実施する大規模改修を見据えながらも、引き続き利用者が安心、安全に利用できるよう、適切な施設管理を進められたい。</p> <p>特別展や企画展においては、1年間で画家、絵本作家、劇作家といった多彩な人物を取り上げたほか、文学館で保管されている資料を活用する展示が行われた。幅の広い内容の展示を行っており、市民の文学への関心を高めることに寄与した波及効果の評価したい。特に、特別展「いわさきちひろの世界 ピエゾグラフ展」については、ピエゾグラフ作品のほか、氏の愛用品や残したことばを紹介し、その生き方や人物像にもフォーカスした充実した展示であったことから、来場者からの評価も「とても良い」「良い」が97.4%と非常に高評価となった。企画展「石川裕人 演劇に愛をこめて」については、劇都仙台を語るうえで欠かせない人物であり、劇都仙台に大きな影響をもたらした石川裕人について、地元の演劇団体と連携しながらその存在と功績を広く紹介したことで、文学的意義があるだけでなく、劇都仙台の発信や演劇文化の普及啓発、活性化につながる企画であったことは高く評価できる。また、企画展「仙台文学館の語り部たち～資料でたどる文学の記憶」においては、初めて文学館に訪れた来場者が64%、30代以下の来場者が約6割を占めており、新しい来場者層を呼び込み、若い世代にも文学館に足を運んでもらうきっかけをつくることができた。</p> <p>講座や関連イベントにおいては、令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類になったことにより、感染症対策を講じながらも開催形態をコロナ禍前に戻せるようになり、より多くの人に対面での学びの機会を提供することができた。</p> <p>令和6年度は開館25周年にあたるため、より多くの人に仙台文学館を知ってもらえるような魅力ある企画や関連イベントの実施を期待したい。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

© 評価担当課(施設所管課):文化観光局文化スポーツ部文化振興課